

第5話：叱られて、ふて寝して、気づけば一緒にうたた寝

昨夜のこと。

パソコンにつないだスピーカーのコードを、ビオラちゃんがかじろうとした。

思わず、私の声が上がる。

「ダメ！！」

珍しい強めの声だったからか、ビオラちゃんの動きがぴたりと止まる。

猫カフェで数か月だけ過ごした過去がある彼女には、「ダメ」という言葉の響きが、まだちゃんと届くのだ。

少し間を置いて、彼女はすたすたとケージの上の定位置へ。

そこには、ぽーちゃんがいつものようにどっしりと寝そべっている。

ビオラちゃんは、その隣のキャットタワーの上に移動して——ふて寝。

その背中には、「怒られたの、納得いかないもん」という小さなオーラを発していた。

その様子を、アビイちゃんが見ていた。

いつもなら、私が ZOOM 会議を始めると同時に画面の前にぬっと現れて、甘えたり、キーボードに乗ってみたりするのに——

なぜかその夜は、ぽーちゃんとビオラちゃんの並ぶキャットタワーの隣に静かに跳び乗って、落ち着いた様子で身を丸めた。

かくして、私の ZOOM 会議中。

猫たちは誰も騒がず、誰も妨害せず、同じ部屋でそれぞれの“うたた寝”に身をゆだねていた。

静かな夜だった。

叱られて、ふて寝して、気づけば、うたた寝。

3匹の心中は、それぞれ違っていただろう。

でもきっと、何かが通じ合っていた。

ちょっと賢くて、ちょっと甘えんぼうな、うちの猫たち。

その背中を見つめながら、私は小さく深呼吸をした。

ありがとう。今夜も、みんな、元気でいてくれて。ありがとう。今夜も、みんな、元気でいてくれて。